

2024年度松本秀峰中等教育学校評議員会 兼 学校評価委員会 開催報告

松本秀峰中等教育学校

【開催概要】

日時 2024年8月28日(水) 15:00-16:20

場所 常念棟 会議室

参加者:学校評議員7名,学校職員6名(学校長、教頭2名、事務長、事務職2名)

【議題】

1. 活動報告
2. 2023年度報告ならびに本年度学事報告
3. 質疑・意見・情報交換
4. 保護者アンケートについて
5. まとめと今後の課題

【会議記録】

1. 活動報告(資料1)

以下について資料と共に主に昨年度の取組事例を中心に解説し、各部門の課題について提示した。

■「学事・教務」

- ・ 進学校としての成熟化を目指し、習熟度別3クラス編成をより一層推進。
- ・ 放課後講座や夏期講習等の再編、有料講座の設定など組織的な生徒の学力の助長。
- ・ 三室(保健室、図書室、心の相談室)の稼働による学校に馴染みにくい生徒の学習環境の構築。

■「進路指導」

- ・ 1期生から9期生の進学実績推移
- ・ 2023年度の進路実績
- ・ 教員研修強化

■「生徒募集」

- ・ 県内の小学生児童数の推移から人口減状況下での入学生確保

- ・ 学校説明会の開催状況
- ・ 小学校訪問の状況
- ・ 2025 年度入試における特待生制度と東京会場(新宿)の新設
- ・ 首都圏入試に関わる今後の展望
- ・ 本校一般入試となる 11 月 23 日について、近隣中学校受験日との日程重複に対する対応について

■「地域発信(自主活動・秀峰祭)」

- ・ 学校 HP 及びブログでの情報発信について、生徒の活躍や日常の学校生活も発信
- ・ 秀峰祭(学園祭)9 月 22 日(日)・23日(月・祝)の予定について
- ・ 課外活動の各種入賞等の実績について(鉄道模型コンテスト全国大会/科学の甲子園ジュニア全国大会/日経 STOCK リーグ/スピーチコンテスト等)
- ・ 3大 Fes.「体育祭」「秀峰祭」「学術祭」について

■「財務・運営関係」:事務長

- ・ 2023年度決算の概要報告と2022年度と比較
- ・ 事業活動収支と資金収支報告。
- ・ 働き方改革ならびに適正な人件費運用
- ・ 施設の維持・修繕に関わる、財源確保
- ・ 学校経営の安定化(学納金以外の収入増)
- ・ 教学体制の充実。

■1年間の学校行事等を写真スライドにより紹介。

【質疑・応答】 なし

2. 2023 年度報告ならびに本年度学事報告(資料2):学校長

別紙に基づき、本校の大学入試合格率、教育環境、改善項目、生徒活動等について説明がなされた。また終わりに、「全ては生徒のため、かけがえのない時間になるよう、より良い学校づくりに尽力する」と改めて志も述べられた。

① 本校の合格実績

ダイヤモンド社が全国の高校の大学合格実績を国立大学・難関私立・医学部の 3 部門により集計した結果を公表しており、雑誌掲載順は国立大学への合格実績数による全国ラ

ンキング順となる。これを母数に対して 3 部門を統合した実績率で表すと、本校は2023年度では県内2位(私立1位)、2024年度は県内1位となった。

② 次世代教育

10年後の社会を想定して、生徒をどのように育てるのかを考えた、解が1つではない問いに対応できる教育と環境、次世代の教育ニーズ＝オンリーワンになる教育の実現をしていく。

③ 放課後の補習・講座の強化

通常の講義に加え、放課後16時10分から補習講座(無料)を行っている。更に17時10分からは特別発展講座を有料で行い、予備校レベルの発展・応用講座を充実させ、生徒・保護者の通塾負担を軽減していく。

④ リテラシー教育

次世代を生きていくため、ルール、リテラシーにも力を入れている。本校はご家庭の指導が優れていることもあり、生活指導上の問題はあまり発生しないが、今後の不測の事態のためにも生徒への注意・指導・処分の指針を定めたい。

⑤ 放課後探究活動

これまでは、生徒が放課後に商業施設へ立ち寄ることを制限してきた。今年度からルールとマナーを身に付けさせることを目的に、「放課後校外探究・活動許可」の下、探究を可能にした。松本市にある学校として、都会の生徒に負けない体験の機会とキャリアを身に付けさせたい。

⑥ グローバル教育

英語が当たり前の時代に備えて、国際交流活動に力を入れる。昨年度は夏のGlobalスタディーズ合宿プログラムに20名参加。来年3月にハートグローバル開催が決定している。

⑦ 進路指導

今春の実績では、医学部医学科に合格した人数が17名と80名定員に対して多い。信州大学医学部医学科に4名合格している点を特筆したい。全員GMARCHレベル以上への合格を目標としたい。最後まで諦めずに力を引き上げていく。今年度は教員研修に力を入れ、生徒の自己実現をサポートしていきたい。教員力(教科指導力、担任対応力、社会人能力)の向上を図る。

⑧ 生徒募集

現状、本校の偏差値は定員が100名に満たない理由から大手中学受験塾が作成するデータ集に掲載されない状況である。来年度に向け1学年105名への定員変更の申請をしているため、今後掲載される見込みである。

⑨ 学校行事

3大フェス(体育祭、文化祭、学術祭)、夏期講習、部活合宿、秀峰祭、校外探究活動(東京、京都)等、学校行事について説明がなされた。

3. 質疑、意見・情報交換

7名の評議員による意見交換を行った。

【主な感想】

- ・ 昨年から設置された三室(図書室、相談室、保健室)の対応に関する評価と継続の希望。
- ・ 松本地域が移住先として高い人気エリアである点に関連して、一般的な課題として「子供の教育」と「高度な医療」等が聞かれる中、質の高い教育が得られる「松本秀峰」の存在が大変有効。
- ・ グローバル化教育への対応に関して、身近で手軽に学べるアジアの国々にも目を向けてみてはどうか。近くでも異国の価値観・文化を学べる機会は豊富にある。
- ・ 卒業生として現在の松本秀峰が、変化し成長している事を実感し、大変うれしく思う。変化が無いと人は離れていくこともあるため、学校が成長していくことで人を惹きつけることになり、日本の社会にも求められると考える。
- ・ 昨年テレビで放映された「ハートグローバルの活動」が大変印象に残った。学習面以外でも特徴的な活動をしていることを知り、嬉しく思う。

【教職員の負担・働き方改革について】

- ・ 公立学校において、教員の教職調整額の率を増やす報道(文科省)がされているが、給与等、待遇を増やすより、教育の喜び、達成感を増幅させ、教員の仕事の魅力を伝えることの方が、大切だと感じている。秀峰においても、教育の充実に向け、先生方を対象とした海外研修や進学支援など、自身を磨ける環境を提供して頂いたらどうか。
- ・ 充実したカリキュラムに感心したと同時に、これらを維持する先生方の負担は気になる。組織力を強化し、チームとして生徒を支援してほしい。
- ・ 先生方はまさに学校の人財だと感じた。その一方で、生徒から「先生は忙しそうだ」という声も聞いているため、業務の負担があるなら検討も必要かと思う。
- ・ 報告を聞き、外から眺めていたイメージより輝いている学校と感じた。自身の母校が生徒任せだった事もあり、よりきめ細かく対応されている印象を受ける。素晴らしい学校だと評価したい。一方、昔ののんびりとしていた先生方と比べると、現代の秀峰の先生方の対応は業務の質も高く、それぞれの負担が多いことが分かる。

【その他要望】

- ・ 都会との体験格差を削減するために芸術系(音楽、美術、書道等)分野も強化。
- ・ 進学実績から「秀峰は学校秀才だけを作っているのではないか」と捉えられる節があり、懸念に感じていた。その一方、秀峰の卒業生が進学した大学の教授からは、秀峰生は「多

様性があり情熱をもって物事に取り組む姿勢」があると伝えてくれる。外部への情報発信の際、生徒の情熱も伝わるよう意識したい。

- ・ 時間やタスクの管理をできるようになることで、オンとオフが明確になり、メリハリのある人生を送れると感じている。進路の実現に邁進することも大切だが、卒業後の人生を見据え、自己管理の大切さも生徒指導で意識してはどうか。

4. 保護者アンケートについて

別紙、2023年度の保護者アンケート 集計報告について説明がなされた。おおむね2022年度の評価を上回る肯定的な評価となった。自由記述にある高い評価や感想の他、本校に期待を寄せる厳しい言葉にもしっかり耳を傾け、真摯に保護者の声に向き合い、改善につなげている。

5. まとめと今後の課題

学校評議員(外部評価委員)の皆さまと意見交換し、2023年度の多くの取組みがこれまでの実績や評価をさらに向上させ良い影響をもたらす改革となったことが確認された。また、さらなる次のステージのためにも今後の取組みとして以下3点をまとめた。

① 教育力のさらなる強化

教員の働き方改革と共に、教員研修支援、教員採用強化

② 進路実現と次世代教育

さらなる難関大・医学部医学科進学支援、多様性への対応、放課後・長期休暇を利用した補習・講座プログラムの強化、キャリア教育、グローバル教育、行事の充実、体験探究機会の創出

③ 生徒募集の拡大

募集エリアの拡大と定員増

長野県の私学でNo.1の教育環境・実績を持つ松本秀峰は Only One の学校として、宗像学校長の第2ステージ計画に基づき、引き続き新たな教育プログラムや様々な支援を強化していく。また、今回の外部評価委員の方から頂いた率直な意見を参考に、本校がさらに輝きを増し、価値のある学校にしていく。